

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270200161		
法人名	株式会社菱南		
事業所名	ケアビレッジ下田 (さざなみユニット)		
所在地	静岡県下田市五丁目6番58号		
自己評価作成日	平成29年8月18日	評価結果市町村受理日	平成29年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/z/z/index.php?action_kounyo_u_detail_2016_022_kani=true&lievosvoCd=2270200161-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年9月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな高台に位置し、窓から山々の木々と海が眺望できる風光明媚な地に建っています。家庭菜園では季節の野菜を収穫し、新鮮な野菜を使った食事を提供しています。玄関まで坂道が続いているため車を利用しての外出支援に力を入れ、外食をはじめ地域の祭りや行事への参加、花の名所である公園に出かけ、地域の人とのふれあいや季節の花の鑑賞など自然と触れ合える時間が持てるようになっています。利用者と職員がアットホームな関係を築き、利用者の笑顔がたくさん見られるよう個別ケアの実践と環境づくりを行い、ゆったりと個人のペースでその人らしく過ごせる生活スタイルが確立できるようなサービスを提供をします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階は天窓の採光が豊かで、気のせいかわ風の通りもよく感じます。目の前の坂道は難儀ですが高低差があることでロケーションもよく、眼下の鍋田浜は碧く澄み、夏休みには子どもたちのはしゃぎ声も届きます。主菜2品に副菜1品、デザートも付、ボリューム満点な食事は、「季節を味わってもらいたい」として冷凍食品は使わず、利用者ど「亀さんの日(割引あり)」に買い物にでたり、畑の収穫物も活用しています。2ヶ月間で確認しただけでも、花まる、かつば寿司、蕎麦屋、かき氷屋、中華料理店、喫茶店、ミスタードーナツ、すきや…と外食が頻回で、「あれが食べたい」「外に行きたい」との声に応え、90歳以上が12名とは思えない健啖ぶりです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員研修の内容にも理念の共有を取り入れ理解して頂き、各ユニットごとに理念を掲示し、サービスを提供するよう心掛けている	理念は1階、2階各ユニットに掲示し、パンフレットにも刷り込んでいますが、全員が暗唱できるかまでは確認をとっていません。管理者としては「職員の定着率の良さが理念の足跡の裏付け」と、捉えています。	理念と連動した職員の個人目標など、実践度が客観的に確認できるものがあれば、なお良いと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前暮らしていた施設などと連絡を取り合い、関係が途切れないよう、地域の行事に参加し寄付や交流を行うなど関係作りに努めている。	よさこいで来訪くださるご縁から東伊豆社会福祉協議会の夏祭りにもでかけ、またあじさい祭り、黒船祭りを筆頭に観光地ならではの下田の豊富な地域行事に必ず参加しています。地域の防災訓練は集合場所が事業所の下なこともあって、歩行可能な利用者は参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域内や他県からの入居相談時や問い合わせ時に、認知症に対して、どのような支援をしているのか説明し、認知症に関する相談業務も行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での内容は市の職員や地域代表、家族、職員に報告し、意見を聞き、サービスの向上にいかしています	運営推進会議の案内は市役所市民保険課に送付していますが、地域包括支援センターは市直轄のため、どちらか一方の出席となっています。比較的狭い事務所での参会なので和気藹々とした雰囲気は自然に生まれ、行政、地域、家族、利用者とは忌憚ない話し合いができています。	開催場所を考えると少し無理もありますが、多様なメンバーが集うよう今後の努力を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	時間がある限り、市役所に出向き話し合いや相談の場を設け2ヶ月に一度の介護支援員の連絡会に参加し情報交換を行っている	これまでも市役所市民保険課には細目に管理者が出向いていましたが、先月から更新申請の介護度を電話窓口では確認できなくなったこともあり、回数が増えています。また介護支援専門員が連絡会へ毎回出席して情報収集、ヨコの連携にも努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝から夕方までの時間帯は開錠し、立地条件上夜間のみ施錠している、身体拘束の研修等にも参加し、職員間で情報を共有し、理解を深めている	身体拘束ゼロ宣言をおこない、日中の玄関、ユニット、エレベーターのロックはありません。「えっ、これも拘束になるの?」と声が挙がるほど、多様な実例をだして内部の勉強会も年1回は実施し、管理者やリーダーが現場で気づけば小さなことでも都度改善しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から入居者の状態観察を行い、虐待行為がないよう注意をはらっている新人職員採用時に虐待行為の説明や研修も行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族や本人より権利擁護に関する問い合わせがあった時には説明できる体制を整えている、また、権利擁護の研修にも参加し、学んできたことを職員間で共有している。現在も制度を利用している方もいるので対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を元に細かく説明し、利用者や家族等が理解、納得を得たうえで手続きを進めていく		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には普段の様子を家族に伝え、毎月1回家族あてに利用者の様子を書いた手紙を出している、意見箱を玄関先に設置している	毎月届けている手紙には必ず、「何かお気づきの点があればお聞かせください」と記載しています。実際気軽に質問や依頼が入っていて、「いつまでも草むしりしないなあと思っていたけど、今日できてよかったよ」といった率直な感想が日頃から届いていることに安心感を覚えます。	高齢になっていく家族の面会が難しい立地です。立地は変更できないことなので、他の点で支援できないかの検討を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の運営や大事な決定事項に関して利用者の状況やサービスの実情を知っている職員の意見を十分に聞き生かしていくことを大切にしています	魚の骨を抜いた食材業者を選定したりと、職員発言は積極的です。取引があったゴミ回収業者が撤退したため、現在は次の業者が見つかるまでの限定で代表者が毎日ゴミを引き取りに来ていて、職員とも立ち話をしたりとアットホームな雰囲気と言いたいことが言える環境にあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と更新時に個人面談を行い、一人一人の職員からヒヤリングしている、また代表者は日頃の勤務状況を把握している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務などの調整を行いさまざまな研修に一人一人に参加できる体制を整えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護事業所による合同研修会やリハビリテーションセミナーなどに参加し職員の希望に応じて多施設見学や研修などを行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前の生活状況を細かく家族や本人から聞き、職員に情報を共有し、良い関係が築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って話をしっかりと聞き、家族と相談しながら信頼関係を築くことに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前に利用されていたサービス事業所のケアマネや病院の相談員と連絡を取り合い得た情報により、ホームのサービス内容を伝え本人と家族に話をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どんな介護の場面においても常に利用者と安心して生活していけるよう、寄り添いながら毎日を過ごしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望時に電話連絡をし、利用者の状況を家族に報告して、家族と会話をし安心して頂く、外泊、外出などの支援も家族と相談し対応している。面会時は居室にてゆっくりと過ごしてもらう		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで愛用していた物を持ち込んで頂く、外出支援で本人の希望する馴染みの場所を訪問している	頻回な外食支援のなかには利用者の自宅近くのかき氷屋をチョイスしたり、南伊豆に住んでいた人が数名いることからその付近を通ってゆける蕎麦屋にしたりと、多々配慮がみられます。写経や洋裁、絵を書くなど以前からの趣味を続けることができている人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者同士のトラブルがないよう職員が間に入りながら、利用者同士の関わり合いづくりに努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も面会に行き、どのように過ごしているが確認している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月に一度のモニタリングをし一人一人の思いを把握するよう努めている。また物事の決定は本人の思いを尊重し、難しい場合は職員や家族と一緒に考えている	アセスメントシートは既往歴や家族構成等入居時までのゆるぎないものとして手は加えず、「モニタリング表」が3ヶ月に1度、「ケアプランシート1」は6ヶ月に1度見直しをすることで経過変化を見つめています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からも情報を聞き、インテークとアセスメントにおいて本人の情報収集に努めサービスに活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方を把握し職員会議のケアカンファレンスなどで現在の状態問題点などを話し合い、改善するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、家族や本人から意向を確認し3ヶ月おきに見直しをおこない、作成している。モニタリングは担当制で3ヶ月に1回実施、再アセスメントは6か月に1回実施し、サービス担当者会議も行っている	「ケアプランシート1」を介護支援専門員と居室担当で協働作成していることから、一職員の介護計画への関わり比重が高まっていて、毎月のカンファレンスで職員全員で共有もでき、どの家族に質問されても受け答えがスムーズです。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はだれがみてもわかるように記入方法を統一し、介護支援経過記録と申し送りノートを使用し全職員が情報を共有できるような体制を作り実践につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業者は2つのホームを運営しているため、利用者の状態に応じて、柔軟な対応を取っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の防災訓練や町のイベントなどに参加し、必要な地域資源との連携を持ち対応している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は家族本人に確認の上、主治医と連絡を取っている、事業所の協力医でない場合は、家族と連絡を取り合い情報を共有している	協力医院では2名の医師が月1回の訪問診療をおこない、また看護師も2名で総計4名の来訪と手厚く、全員が担当医を変更しています。ユニットリーダーと管理者が立ち合い、訪問診療ノートに「特変あり」等記載して医療情報を保管しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在非常勤の看護師が勤めているので、できる範囲内で受診や看護対応をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会に行き、医療関係者から本人の状況を確認し、様子を伺うようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在の看護師は非常勤のため、看取りケアは行っていない。	週4時間勤務の看護師はいますが医療面では足りないとして、また職員のメンタル的にも難しいとの考えを以て看取りはおこなっていません。ただし、急変時には「ご家族が希望される医療的対応の意向確認書」と「終末期の意向確認書」を取り交わして、有事に備えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が緊急時の対応ができるようマニュアルを作成している、定期的に訓練や講習を受けている。また緊急時に対応できるよう吸引ノズルやポケットマスクを用意している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時職員行動マニュアルを見直し作成し、年2回の防災訓練を行い、災害時に備えている、家族や地域住民にも参加を促している	年2回の総合訓練の内1回は福祉施設防災の日を実施しているため静岡県職員の抜き打ちの立ち寄りがあったり、消防署職員の立ち合いは事業所側から求めています。また消防署の指導に基づき、消火器の配置など該当項目を週1回チェックしています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のため、入浴は個別浴とし、ゆっくりと一人の時間を楽しめます。また、居室ではのんびりと過ごせるよう廊下から居室内を見られないよう扉を閉めておくよう常に注意を払っている	新採には研修で配布する以外にもハウスルー的な資料を渡し、周知を漏れなく進めています。職員が全員女性となってはいますが、現在同性介助を希望するのが女性のためのため、事なきを得ています。男性が希望した場合は代表者や役員が対応できる態勢もあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすいように選択してもらったり、難しい人にはその人の立場にたった考えや働きをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを把握し、寄り添ったケアの提供を行うため、その日の利用者の状態に合わせて、起床時間就寝時間食事時間は一人一人の希望に沿った支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きなようにお化粧が出来るよう、化粧品を揃えて道具を居室に置いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者と相談しながら決めている。食事作り、盛り付け、食器洗いは利用者と一緒に声を掛けながら出来る事を行っている。	主菜2品に副菜1品、デザートも付、ボリューム満点で「季節を味わってもらいたい」として冷凍食品は使わず、利用者と買い物にでたり、畑で収穫したものを使い、ほぼ全員が完食しています。クラシック曲が流れ、職員が話を振り、和やかな時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった摂取量を把握し、必要な栄養が取れるようにしている、摂取方法としては刻み食、利用者の状態に合わせて、食べやすい工夫をし、水分などもトロミを使用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいの出来ない人などは、歯ブラシで汚れを落としてたり、ガーゼで口腔内の清潔を保ち、毎食後、口腔ケアを行っている、また、義歯使用の人に毎日に入れ歯洗浄剤を使用している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	残存能力を見極めたうえで一人一人の排泄方法を考え、スムーズに排泄できるようにしている、また排泄表を作成することで、排尿パターンを把握し、その人に適したパットやオムツの種類を選んでいる	(トイレに行く癖がつくメリットはあるものの)定時誘導はせず、本人の排泄チェック表によるパターン把握で声掛けをし、リハパンから布パンにパッドへと向上させていく折にも、家族と相談しています。朝食後に冷えた牛乳や、水分摂取を増やしたりしての快腸支援もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には定期的に牛乳を摂取してもらい、オムツ着用の方に関しては、トイレに座って頂き自然排便が出来るようにしている、下剤により排便コントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時には必ず声を掛け意思を確認し、時間など希望がある時は、順番を調整している。入浴剤や季節湯でその時々を季節を楽しんでいる。衣類の支度などできる人は気に入った洋服を選択してもらう	開閉扉付の浴槽はADLが下がっても無理なく湯に浸かる喜びを味わえます。また扉を閉めての足し湯は、出る際に湯の大半がこぼれることもあり、個毎に湯を入れ替え衛生的です。ボディソープの銘柄や固形石鹸等好みも様々で雑然としがちなところを、よく整頓されていて感心します。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れている様子などが見受けられた時には声掛けし居室でゆっくりと休息してもらっている、自身で居室で過ごせる時間を設けている。また、室温調整を行い快適な温度で過ごしてもらう		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は職員がすぐに確認できるようファイルにまとめ、変更時などは管理者リーダーより申し送りがあり、情報を共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の得意とすることを把握し、出来る役割をお願いしている、また、興味や意向を取り入れながら、楽しみにつながるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じた、柔軟な外出支援が実施されている、ユニットごとに出かけるのではなく交流を深めるために合同で外出をし、個別の外出支援も提供している	2ヶ月間で確認しただけでも花まる、かつば寿司、蕎麦屋、かき氷屋、中華料理店、喫茶店、ミスタードーナツ、好きや...と出ていて、「あれが食べたい」「外に行きたい」との声にえています。畑の水やりを日課とする人がいたり、イルカショーを観たり、選挙投票にも出掛けています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人または家族の希望に応じて、お金を所持してもらい、個人で管理できない場合は、家族の承諾の上、お小遣い金として管理し、ほしい物や必要な物を購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいときには自由に連絡をとれるよう取り次ぎをしている。また、手紙やはがきのやり取りとしている人は、あて名の確認や投函を手伝っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの大きさは車椅子が入りやすい広さを確保し、気持ち良く排泄ができるよう扇風機を使用して温度管理をしている。季節を感じられる展示物を用意し、大きな窓から自然光が入りやすいような設計になっている	2階は天窗もあり採光が豊かで、気のせいかわ風の通りもよく感じます。目の前の坂道は難儀ですが高低差があることでロケーションもよく、鍋田浜がまるでグアムのプライベートビーチのようで、夏休みには子どもたちのはしゃぎ声も届きません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内の家具の配置は利用者に危険がないよう十分に考え、身体機能に合わせた物を用意している、ユニット間でも共有しながら使用している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が暮らしやすいように家族に協力してもらい馴染みの物を持ち込んでもらい、利用者が暮らしやすいように自宅と同じ配置をしている。	ベッド、エアコン、机と椅子、低めのチェストのほか、手すりも居室に配されていて、その人のADLに応じて配置も考えられています。100歳を迎え大臣や知事からの表彰状を飾ってあったり、観葉植物の水やりを楽しみとしたり、自宅で愛でていた盆栽を持ち込んでいる人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は出来る事が増えるよう手すりの設置を行い安全で自立できる生活を送れるようにしている、また、どのようにしたら出来る事が増えるのかを考え、工夫した環境づくりに努めている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270200161		
法人名	株式会社菱南		
事業所名	ケアビレッジ下田 (磯の香ユニット)		
所在地	静岡県下田市五丁目6番58号		
自己評価作成日	平成29年8月18日	評価結果市町村受理日	平成29年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiyosyoCd=2270200161-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年9月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな高台に位置し、窓から山々の木々と海が眺望できる風光明媚な地に建っています。家庭菜園では季節の野菜を収穫し、新鮮な野菜を使った食事を提供しています。玄関まで坂道が続いているため車を利用しての外出支援に力を入れ、外食をはじめ地域の祭りや行事への参加、花の名所である公園に出かけ、地域の人とのふれあいや季節の花の鑑賞など自然と触れ合える時間が持てるようになっています。利用者と職員がアットホームな関係を築き、利用者の笑顔がたくさん見られるよう個別ケアの実践と環境づくりを行い、ゆったりと個人のペースでその人らしく過ごせる生活スタイルが確立できるようなサービスを提供をします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階は天窓の採光が豊かで、気のせいか風の通りもよく感じます。目の前の坂道は難儀ですが高低差があることでロケーションもよく、眼下の鍋田浜は碧く澄み、夏休みには子どもたちのはしゃぎ声も届きます。主菜2品に副菜1品、デザートも付、ボリューム満点な食事は、「季節を味わってもらいたい」として冷凍食品は使わず、利用者ど「亀さんの日(割引あり)」に買い物にでたり、畑の収穫物も活用しています。2ヶ月間で確認しただけでも、花まる、かつば寿司、蕎麦屋、かき氷屋、中華料理店、喫茶店、ミスタードーナツ、すきや...と外食が頻回で、「あれが食べたい」「外に行きたい」との声に応え、90歳以上が12名とは思えない健啖ぶりです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員研修の内容にも理念の共有を取り入れ理解して頂き、各ユニットごとに理念を掲示し、サービスを提供するよう心掛けている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前暮らしていた施設などと連絡を取り合い、関係が途切れないよう、地域の行事に参加し寄付や交流を行うなど関係作りに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域内や他県からの入居相談時や問い合わせ時に、認知症に対して、どのような支援をしているのか説明し、認知症に関する相談業務も行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での内容は市の職員や地域代表、家族、職員に報告し、意見を聞き、サービスの向上にいかしています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	時間がある限り、市役所に出向き話し合いや相談の場を設け2ヶ月に一度の介護支援員の連絡会に参加し情報交換を行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝から夕方までの時間帯は開錠し、立地条件上夜間のみ施錠している、身体拘束の研修等にも参加し、職員間で情報を共有し、理解を深めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から入居者の状態観察を行い、虐待行為がないよう注意をはらっている新人職員採用時に虐待行為の説明や研修も行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族や本人より権利擁護に関する問い合わせがあった時には説明できる体制を整えている、また、権利擁護の研修にも参加し、学んできたことを職員間で共有している。現在も制度を利用している方もいるので対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を元に細かく説明し、利用者や家族等が理解、納得を得たうえで手続きを進めていく		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には普段の様子を家族に伝え、毎月1回家族あてに利用者の様子を書いた手紙を出している、意見箱を玄関先に設置している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の運営や大事な決定事項に関して利用者の状況やサービスの実情を知っている職員の意見を十分に聞き生かしていくことを大切にしています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と更新時に個人面談を行い、一人一人の職員からヒヤリングしている、また代表者は日頃の勤務状況を把握している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務などの調整を行いさまざまな研修に一人一人に参加できる体制を整えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護事業所による合同研修会やリハビリテーションセミナーなどに参加し職員の希望に応じて多施設見学や研修などを行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前の生活状況を細かく家族や本人から聞き、職員に情報を共有し、良い関係が築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って話をしっかりと聞き、家族と相談しながら信頼関係を築くことに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前に利用されていたサービス事業所のケアマネや病院の相談員と連絡を取り合い得た情報により、ホームのサービス内容を伝え本人と家族に話をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どんな介護の場面においても常に利用者と安心して生活していけるよう、寄り添いながら毎日を過ごしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望時に電話連絡をし、利用者の状況を家族に報告して、家族と会話をし安心して頂く、外泊、外出などの支援も家族と相談し対応している。面会時は居室にてゆっくりと過ごしてもらう		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで愛用していた物を持ち込んで頂く、外出支援で本人の希望する馴染みの場所を訪問している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者同士のトラブルがないよう職員が間に入りながら、利用者同士の関わり合いづくりに努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も面会に行き、どのように過ごしているが確認している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月に一度のモニタリングをし一人一人の思いを把握するよう努めている。また物事の決定は本人の思いを尊重し、難しい場合は職員や家族と一緒に考えている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からも情報を聞き、インテークとアセスメントにおいて本人の情報収集に努めサービスに活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方を把握し職員会議のケアカンファレンスなどで現在の状態問題点などを話し合い、改善するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、家族や本人から意向を確認し3ヶ月おきに見直しをおこない、作成している。モニタリングは担当制で3ヶ月に1回実施、再アセスメントは6か月に1回実施し、サービス担当者会議も行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はだれがみてもわかるように記入方法を統一し、介護支援経過記録と申し送りノートを使用し全職員が情報を共有できるような体制を作り実践につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業者は2つのホームを運営しているため、利用者の状態に応じて、柔軟な対応を取っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の防災訓練や町のイベントなどに参加し、必要な地域資源との連携を持ち対応している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は家族本人に確認の上、主治医と連絡を取っている、事業所の協力医でない場合は、家族と連絡を取り合い情報を共有している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在非常勤の看護師が勤めているので、できる範囲内で受診や看護対応をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会に行き、医療関係者から本人の状況を確認し、様子を伺うようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在の看護師は非常勤のため、看取りケアは行っていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が緊急時の対応ができるようマニュアルを作成している、定期的に訓練や講習を受けている。また緊急時に対応できるよう吸引ノズルやポケットマスクを用意している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時職員行動マニュアルを見直し作成し、年2回の防災訓練を行い、災害時に備えている、家族や地域住民にも参加を促している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のため、入浴は個別浴とし、ゆっくりと一人の時間を楽しめます。また、居室ではのんびりと過ごせるよう廊下から居室内を見られないよう扉を閉めておくよう常に注意を払っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすいように選択してもらったり、難しい人にはその人の立場にたった考えや働きをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを把握し、寄り添ったケアの提供を行うため、その日の利用者の状態に合わせて、起床時間就寝時間食事時間は一人一人の希望に沿った支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きなようにお化粧が出来るよう、化粧品を揃えて道具を居室に置いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用居と相談しながら決めている。食事作り、盛り付け、食器洗いは利用者と一緒に声を掛けながら出来る事を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった摂取量を把握し、必要な栄養が取れるようにしている、摂取方法としては刻み食、利用者の状態に合わせて、食べやすい工夫をし、水分などもトロミを使用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいの出来ない人などは、歯ブラシで汚れを落としてたり、ガーゼで口腔内の清潔を保ち、毎食後、口腔ケアを行っている、また、義歯使用の人に毎日に入れ歯洗浄剤を使用している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	残存能力を見極めたうえで一人一人の排泄方法を考え、スムーズに排泄できるようにしている、また排泄表を作成することで、排尿パターンを把握し、その人に適したパットやオムツの種類を選んでいる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には定期的に牛乳を摂取してもらい、オムツ着用の方に関しては、トイレに座って頂き自然排便が出来るようにしている、下剤により排便コントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時には必ず声を掛け意思を確認し、時間など希望がある時は、順番を調整している。入浴剤や季節湯でその時々を季節を楽しんでいる。衣類の支度などできる人は気に入った洋服を選択してもらう		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れている様子などが見受けられた時には声掛けし居室でゆっくりと休息してもらっている、自身で居室で過ごせる時間を設けている。また、室温調整を行い快適な温度で過ごしてもらう		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は職員がすぐに確認できるようファイルにまとめ、変更時などは管理者リーダーより申し送りがあり、情報を共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の得意とすることを把握し、出来る役割をお願いしている、また、興味や意向を取り入れながら、楽しみにつながるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じた、柔軟な外出支援が実施されている、ユニットごとに出かけるのではなく交流を深めるために合同で外出をし、個別の外出支援も提供している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人または家族の希望に応じて、お金を所持してもらい、個人で管理できない場合は、家族の承諾の上、お小遣い金として管理し、ほしい物や必要な物を購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいときには自由に連絡をとれるよう取り次ぎをしている。また、手紙やはがきのやり取りとしている人は、あて名の確認や投函を手伝っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの大きさは車椅子が入りやすい広さを確保し、気持ち良く排泄ができるよう扇風機を使用して温度管理をしている。季節を感じられる展示物を用意し、大きな窓から自然光が入りやすいような設計になっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内の家具の配置は利用者に危険がないよう十分に考え、身体機能に合わせた物を用意している、ユニット間でも共有しながら使用している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が暮らしやすいように家族に協力してもらい馴染みの物を持ち込んでもらい、利用者が暮らしやすいように自宅と同じ配置をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は出来る事が増えるよう手すりの設置を行い安全で自立できる生活を送れるようにしている、また、どのようにしたら出来る事が増えるのかを考え、工夫した環境づくりに努めている		